



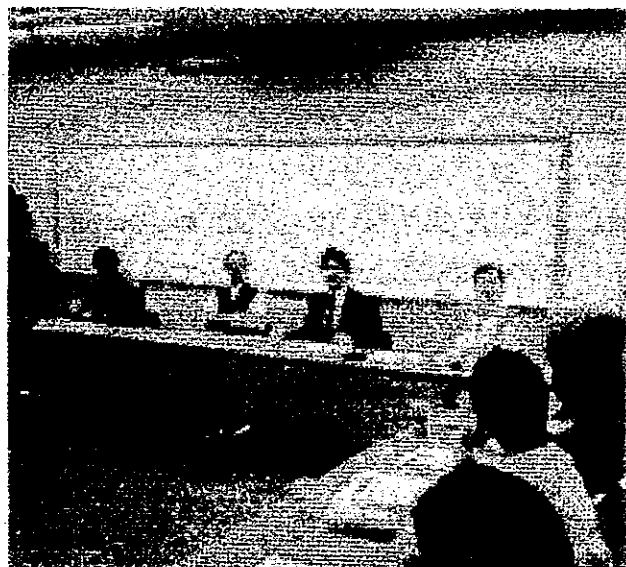
# ユーラシアンホットライン

VOL-8

1998年7月発行

## ◆ユーラシアンフォーラム6月例会の報告◆

月に一度の開催が慣例となりましたユーラシアンフォーラムが、6月は14日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センターにて行われました。当日は、カムシュベク・オムルザコフ氏(キルギス共和国議会)とザヒドフ・ムザファール氏(在日ウズベキスタン大使館一等書記官)をお招きし、興味深いお話をうかがうことができました。カムシュベク氏は、「キルギスタンの経済改革」と題して、マクロ経済の細かな指標をもとに、国家財政のこと、国内産業のこと、輸出入のことなどについて詳しく話され、経済改革の必要性を力説されました。ザヒドフ氏は、「ウズベキスタンと日本の交流」と題して、歴史的な話から説き起こし、現在の同国の様子、そして日本との関わりや観光客の誘致などについて話されました。また、通訳は加藤九祚が担当され、わかりやすく解説してくださいました。当日は新しい顔ぶれも増え盛況でした。



(左から)カムシュベク氏・加藤先生・ザヒドフ氏・大野

フォーラムの終了後は、6月で日本を去ることになったキルギスタンからの留学生ジュルディス(愛称ジカ)さんと、モンゴルからの留学生で国際交流基金の日本語コンクールで優勝したという女性のふたりの送別会となりました。ジカさんは、帰国後日本語の教師になられるそうです。日本では、新潟県湯之谷村でのホームステイの体験が印象に残っているとのことでした。



ジカさん(右から2人目)とモンゴル人女性(右から3人目)

次回のフォーラムは、7月11日(土)の暑気払いの当日に、カザフスタンのアスカル氏と内モンゴルのアロハン氏がお話される予定です。

ユーラシアンフォーラムにぜひおでかけください。参加希望・お問い合わせはクラブ事務局まで。

## ◆加藤さんがモンゴル人女性と結婚◆

当クラブの幹事で「モンゴルレター」事務局長である加藤優幸さんが、モンゴル人女性オユンチメグさんと結婚されました。

その披露宴が、7月5日(日)に東京・小石川後楽園内の「カントク亭」で開かれました。

末永くお幸せに！



## ◆“ユーラシア・コミュニケーション・フェス in 小出郷”へのお誘い◆

◎フェス演目決定！ 参加申し込みは7月11日まで。FAXで。

ユーラシア・コミュニケーション・フェスの演目がほぼ固まりました。昨年に続き第2回を迎える芸能祭は、北方シベリアのトルコ系民族サハのアーティスト2人、北海道浦河町のアイヌ民族芸能保存グループらが特別に招聘され実施されます。フェスの中軸になる内モンゴルアンサンブル、ウイグル歌舞グループ、地元の太鼓グループは今年も熱演します。「アート・温泉・コシヒカリ」を楽しむ楽しい催しに多くの人を誘ってご参加ください。東京から大型バス2台に分乗して参加します。

参加代金は1万3千円(コンサートチケット、バス代金、25日夕食付き)

夜は、奥只見・銀山平のキャンプ場でテント泊。東京周辺の留学生らと交流します。

申し込み締め切りは7月10日(テント申し込みの都合上)。

申し込み先は、FAX044-965-2537大野遼まで。

### <出演者演目>ユーラシア・コミュニケーション・フェス in 小出郷

#### ◆オドバル・グループ

##### 1, 牧民の悦び(踊り) / 6分

牧民に暮らす遊牧民。大自然の中に生きる彼らの生活は決して楽ではない。朝早くからの乳搾り。羊たちを遊牧地へと導き、恐ろしい狼から守ってやる。病気の羊がいれば夜も寝ないで看病。そして新しい放牧地への移動。しかし、まるまると太った家畜たちが、大地を埋めるとき、遊牧民たちの苦勞は報われる。大自然の中に暮らす幸せに胸は高鳴り、遊牧民として生まれた喜びを体一杯に表さずにはいられない。

##### 2, ジャーハン・シャルガ(歌) / 2-3で6分

この歌は美しい草原で知られるシリングル地方の民謡であるオルティン・ドーの曲。

##### 3, ワン・リ(歌)

ポインヒシグという一人の僧侶がワン・リという娘に恋をしてしまう話。仏に仕える身でありながら、ワン・リのことが頭から離れなくなってしまったポインヒシグは、気が付くとお経の代わりに彼女の名前を唱えるまでになってしまう。それを見た村人たちが噂話に花を咲かせる。そんな様子をユーモラスに歌い綴っていく。ボグン・ドーの一曲。

##### 4, スーホの白い馬 / 4-5で10分

内モンゴルの著名な馬頭琴奏者であり作曲家であるチ・ボラグ氏の曲日本でも有名なモンゴルの民謡をイメージして作られた作品です。

##### 5, 万馬のとどろき

馬頭琴の伝統的技法に新しい高度な技法を織り混ぜたチ・ボラグ氏の傑作。1997年中国国家コンクールの演奏部門第1位、作曲部門第2位受賞。この曲にはチ・ボラグ氏の「民族は伝統を保存すると同時に新たな挑戦が必要だ」という願いも込められている。何万頭もの馬が草原を疾走する姿を巧みに描きながら、前進していくモンゴル民族の姿を表現している。

##### 6, モンゴル人(踊り) / 4分

モンゴル国の国民的詩人、ナツァグドルジの作品に、内モンゴル出身の歌手テンゲルが曲と付けた歌曲をもとにした民族舞踊。モンゴルの大草原を愛し、草原に生まれた自分を誇りに思うモンゴル人の心をあらわす。

モンゴルのゲル(パオ)からは煙たなびき / 風の音を子守歌に育った私

馬の背をゆりかごに育った私 / そう、私はモンゴル人 / 草原を心から愛する人……

##### 7, ふるさと(日本歌曲) / 7-8-9で10分

##### 8, 四歳の馬(ドルボン・ナスタイ・ハリゴン)

代表的オルティン・ドーである。曲の前半では草原を駆け抜ける4歳の馬をたたえ、後半は恋の歌となる。モンゴルのオルティン・ドーではこのような歌詞の構成が非常に多い。

##### 9, 草原に昇る沈まぬ太陽

モンゴル民謡の特長を生かして作曲された豪快かつ美しい旋律を持つ曲である。草原を愛し故郷を誇るモンゴル族の心意気を歌ったこの曲は、内モンゴルだけでなく中国全土で愛唱されている。

#### ◆ハトゥラーエフ夫妻〜フォークローア祖先の音楽と自然の音響

##### a) 自然の生きた音響 / 5分

(キリンパ:馬の毛を使った弦楽器、ホムス:口琴、キュプシュル:カスタンネット、デュニユル:シャーマンの太鼓、ジャガア:手で振動させる楽器などの民族

楽器を使った自然音響の模倣)

b) チャビルガー/3分 (ホムスを使ったヤクート馬を称える喉歌)

c) ホムスー/5分 (伝統的な即興演奏)

○ヤクート民族歌謡ー/15分 (キューシュル、ジャガア、ホムス及びアコースティックギター使用)

◆ 浦河ウタリ文化保存会(会長、向井竹夫)

1, ムックリ(口琴)演奏/2分

呼吸によって音色が変わり、若いときは恋しい人のことを思いながらせつない気持ちで演奏し、うれしいとき、悲しいとき、その時々によって音色が変わり、音符もない時代にその都度に応じて演奏された。

2, コタンクルカムイ(村の守り神の歌謡)/2分

知恵の神様であるフクロウは、よる寝静まってから、村に来るいろいろの魔物を追い払い、村の安全を守ってくれる神様。

3, カムリリムセ(熊送りの儀式の歌謡)/3分

熊の例を天国に返してやるときに踊り、その地方によって熊送りに伴うものは多少の違いはあるが、古老の音頭により幾通りかの歌詞も変え、そのたびに誰からともなく歌に合わせて立ち上がり輪を作り、手拍子と掛け声で回る踊り。

4, エホレン(作業の歌謡)/3分

木や雑草が生い茂った野山を、苦勞に苦勞を重ね開墾しやつのことで農耕が盛んになり、春の種蒔きから秋の収穫までの間、蒔いたものがたくさん採れますように神様にお願ひ、収穫した穀物で粉を挽き、団子を作り収穫の喜びを感謝しながら踊ったもの。

○ウポボ(歌)

1, ハンロウサ(神を送るときの踊り) 1, 5分 ハンロウサ ハンロ ハンロウサ ハンロ ホイ

2, アラサオ(神の子供に子守歌/イフンケ) 1, 5分 アラサオーホイヤーオー ホイヤサオーホイヤーオー

3, ホイヤップナ(熊送り/カムイを慰めるための歌) 1, 5分 ホイヤップナ ハハウウ ホイヤップナ ハハウウ

◆ ウイグル歌舞演目

1, 12ムカーム(飛天の舞)/3分

女ムニーラ・ミルハスム(新疆医学院)

2, 新疆の女の子(新疆の子供の踊り)/5分

女フィローラ 小学5年生

3, 民族楽器(ドタール)演奏/3分

女グリハヤト・ワハップ(東京医科歯科大)

4, マシエラップ/収穫祭(ウイグル民族舞踊)/4分

男ウメルジャン・アブラ(東京理科大)

男デリシャット・アブラ(千葉大)

男デリシャット・メト(東京大)

男クティルク・サビティ(武蔵工大)

女グリハヤト・ワハップ(東京医科歯科大)

女マイーラ・ヤセン(新疆師範大)

女ムニーラ・ミルハスム(新疆医学院)

女ムニーラ・カデール(東京電機大)

※民族楽器(ダップ)演奏・・・男イリヤル・シャヘディン(東京医科大)

5, ボールで遊ぼう(新疆の子供の踊り)/3分

女フィローラ 小学4年生

6, 公園の二人(男女ペアの踊り)

男デリシャット・アブラ(千葉大)

男デリシャット・メト(東京大)

女マイーラ・ヤセン(新疆師範大)

女ムニーラ・カデール(東京電機大)

※民族楽器(ダップ)演奏・・・男イリヤル・シャヘディン(東京医科大)

以上 男性5名、女性4名、子供2名、計11名出演

◆ チェチェンのアンサンブルを日本へ～仏教僧寺沢潤世氏の思い

チェチェンの国立子供アンサンブル「ノホチヨ」

1996年8月ロシアとの間に和平協定が結ばれ、1年8ヶ月にわたる戦争はいちおう終結しましたが、戦争の傷痕は深く、

首都グロズヌイはまだ瓦礫の中、緑深い森や田畑には至るところに地雷が埋められ、現在も多くの犠牲者が出ています。

ロシアとの戦争中も、疎開先で、瓦礫のグロズヌイで、民族の伝統の灯火を保ってきた子どもたちの舞踊団が「ノホチヨ」です。戦火の中をくぐってきた子どもたちの踊りを通して、チェチェンの今の現状、文化を、知ってほしいという声が届いています。活き活きとした子どもたちの踊りは、日本の子どもたちにも元気を与えてくれることでしょう。

彼らを日本に呼ぶために、ユニセフに働きかけているところですが、メンバーは40人余り、興行的にも大変になると思います。何かお力添えいただけることがあれば、どうぞご一報ください。アイデアもお待ちしています。(連絡先 03-3778-7732)

「ノホチヨ」の支配人タハエフ・マホメドさんから、次のようなメッセージが届いています。

チェチェン人にとって、舞踊は人生の大きな部分を占めています。舞踊は生活であり、内なる「自分」でもあります。踊りの中で、心に秘めたものを表現するのです。

「レギンスカ」と呼ばれるコーカサス舞踊は、どれもよく似ていると思われていますが、それぞれの種族の特徴が織り込まれており、純粋な民族舞踊の場面では大きく異なります。

チェチェンの舞踊のそもそもの始まりは、狩猟の様子、種族間の争いなどを模倣した単純な動きですが、民衆とともに成長し、レギンスカについてはチェチェン・イングーシの舞踊に並ぶものはないとされる形をつくりました。

チェチェン人は神以外の支配者をもたなかった少数民族であり、チェチェンの歴史は多大な人的犠牲の代償を払った戦いの歴史です。舞踊はその歴史とともに歩んできました。苦難のなかで、舞踊について、こんな話が語り伝えられています。

一九四四年、チェチェン・イングーシ人がシベリアへ強制移住させられたとき、ある駅で、飢えと寒さのために死んだ多くの人々が貨車から下ろされました。兵隊たちが死体を並べ、山になると、ひとりの酔った兵士が凍死した老婆の体に腰を下ろしました。この光景に、人々はなすすべもなく立ち尽くしているとき、十二、三歳の少年が飛び出して、死者の枕元でレギンスカを踊り始めたのです。大人たちはショックで呆然としていましたが、子どもたちは手拍子をとり始めました。この踊りは、敵を軽蔑し、自ら死を恐れないことを示していたのです。

居並ぶ大人たちが子どもたちを止めようとしたとき、ひとりの長老が進み出て言いました。「我々はどこへ連れていかれるのか、知らない土地で生き延びられるのか、わからない。私たちがまだ生きている証に、この子たちの踊るレギンスカを覚えておくように」

一九九五年、チェチェン・ロシア戦争が最も激しかったとき、私たちは六十人ほどの子どもを兄弟国家であるカバルディに送り、そこで子どものアンサンブルをつくらせました。八時間もバスを待ち、乗り込むと、子どもたちはすぐに眠ってしまいました。

グロズヌイを出るところにロシア軍の拠点があり、そこにさしかかると、ひとりの子どもが叫びました。「兵隊だ！」子どもたちは飛び起きるなり、激しくレギンスカを踊り始めました。そして、拠点を通過するときには、兵隊たちに侮蔑の視線を投げつけながらも静かに通過。これを、カバルディ・パルカリア国境に着くまで何回も繰り返しました。子どもたちは、くたばらないぞ、泣かないぞ、いつか自分たちの祖国を立て直すぞと訴えていたのです。

こうして私たちがアンサンブルを結成したのは、チェチェンにとって非常に困難な時期でした。その最大の目的は、アラーがくれた最高の贈り物、子どもたちの笑顔の世界に示すことです。

して関係者の利用を待っています。

(情報提供 インターカレッジ文化講座受講 保井 一郎)

#### ◆ 長春日中友好会館落成

中国東北三省の一つである吉林省の省都長春市は、自動車産業や映画など、産業、文化の中心都市として目覚ましい発展をみせております。この長春市と縁のある個人、姉妹都市仙台市、NTT、トヨタ自動車などの募金と中国側の出資で長春日中友好会館がきたる8月23日落成の運びとなりました。

日本長春会は76名のツアーを組みこの落成式に出席します。

会館は宿泊施設のほか、お茶、生け花の紹介、テレビ電話による通信設備も備える予定です。長春市の経済発展区に6階建てビルと

#### ★ニュースレター・会報のボランティア記者募集中

#### ★クラブ会報会員募集中

<クラブに関するお問い合わせ先>

〒215-0013 神奈川県川崎市麻生区王禅寺 2485-2-204

TEL 044-965-2536 FAX 044-965-2537

E-MAIL PAF02266@niftyserve.or.jp

ユーラシアンクラブ 神奈川事務所 大野まで